

## 第4章 文化財に関する既往の把握調査

1. 文化財調査報告書
2. 狭山町史、大阪狭山市史編さんにともなう調査
3. 市民活動による調査の実績
4. シンポジウムと郷土資料館展示
5. 類型別にみた把握状況

# 1. 文化財調査報告書

本市の歴史文化遺産を対象として刊行されている報告書などを中心に、既往調査の概要と調査成果についてまとめます。

## (1) 大阪狭山市文化財報告書シリーズ

本市では昭和63年(1988)から、市内の文化財調査の成果の報告を目的として『大阪狭山市文化財報告書』を刊行しています。現在までに、市内の埋蔵文化財発掘調査の報告を中心に58冊を刊行しました。

既刊報告書のうち、市内埋蔵文化財の開発にともなう緊急調査の報告書が32冊と最も多くなります。次いで調査対象を限定している埋蔵文化財発掘調査の報告書が21冊あり、須恵器窯跡や、狭山藩陣屋跡の調査結果を報告しています。

その他には、市指定文化財の調査報告書が2冊、史跡狭山池と関連文化財の調査報告書が2冊、民俗調査報告書が1冊となります。

須恵器窯跡や狭山藩陣屋跡といった埋蔵文化財は、本市の歴史文化の特徴となる文化財です。その調査成果をもとにした、講演会、郷土資料館展示などを開催しています。

## (2) 狭山池の平成のダム化工事にともなう文化財調査報告書

市のシンボルである国史跡狭山池で、昭和63年(1988)から実施したダム化工事にともない、市と府が共同で実施した文化財調査の報告書です。工事に先立ち昭和62年(1987)から狭山池調査委員会、狭山池調査事務所を設立し、年度ごとの報告書10冊と3冊の調査研究書を刊行しています。この3冊の調査研究書は、現在でも史跡狭山池を知るための基礎資料となっています。狭山池調査事務所では他にも、写真資料調査の成果として『ふるさとの光景』、史料調査の報告としてカラー図版を基本とした『絵図に描かれた狭山池』を刊行しています。



図1 狭山池 中樋と旧取水塔

狭山池を中心に実施してきた調査研究は、現在も狭山池博物館で継続しています。狭山池本体の調査も含め、広い視野で狭山池と土木遺産の価値について調査研究を続け、展示、講座、研究報告を通して発信しています。

また、大規模な改修がおこなわれた大正・昭和の改修時の記録『狭山池改修誌』(昭和6年(1931)大阪府刊)には、池守田中家文書を中心とした文献資料の調査とあわせて、末永雅雄博士の『大阪府史跡名勝天然記念物調査報告第一輯』(昭和5年(1930))所収の狭山池に関する研究報告が『後編 狭山池志』として収録されています。

いずれも、国史跡狭山池の歴史的価値を証明する貴重な調査記録となっています。

### (3) 国・大阪府による調査とその報告

国の調査としては、平成12年(2000)から文化庁が実施した、農林水産業に関する文化的景観の調査報告書が1件あります。

府が実施している市内での調査の多くは、発掘調査です。それ以外では、府内全体の文化財調査報告書に一部、市内の文化財が触れられています。

## 2. 狭山町史、大阪狭山市史編さんにもなう調査

本市では、昭和20年(1945)以前から末永雅雄博士<sup>すえながまさお</sup>によって、各種の文化財調査が実施されてきました。戦後、狭山村が村史編纂事業<sup>そんしへんさん</sup>として末永博士の指導のもと調査事業を始め、町制施行後に『狭山町史』<sup>さやまちょうし</sup>として刊行しました。

全国的に見ても早い時期に始めた文化財調査は、当時、調査対象となった市内の文化財と関係者の意識を変え、市内の個人宅に多くの文化財が残るきっかけとなりました。調査の記録だけでなく、当時としては貴重な写真資料も多く、重要な資料群となっています。

古文書などの歴史史料は、町史調査後に散逸してしまっただけのものも多くありますが、調査当時に筆写した稿本<sup>こうほん</sup>が現在もすべて残されています。稿本の原稿用紙は『狭山町史史料』として製本され、後世に残すことを意識して調査を実施していたことがうかがえます。

平成5年(1993)、市史編さん事業開始にともない再び各種の調査を開始しました。古文書については把握調査が基本となり、事業開始から6年間に9冊、事業後も3冊の文書目録<sup>もんじよ</sup>を刊行しています。市史編さん事業で調査を実施した文書群は、新規発見もあり、町史編さん時より文書群の数としては増えていますが、町史編さん時に調査していた古文書で所在が確認できないものも多くなりました。近年、町史編さん時に調査した文書群の所蔵者(ご家族)の方から、寄贈・寄託に関する問い合わせが急増し、再発見につながるケースも出てきています。

市史編さん事業では、石造物<sup>せきぞうぶつ</sup>の把握調査も実施し、市内にある墓所においてすべての石造物の台帳を作成しています。また、小字名<sup>こあざめい</sup>の調査については、郷土資料館事業から継続して実施し、『市史 地名編』を刊行しています。

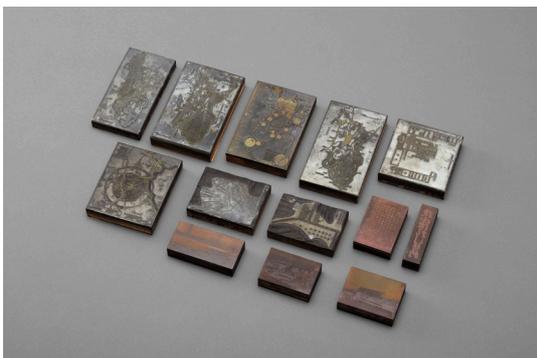


図2 『狭山町史』の印刷に使われた判

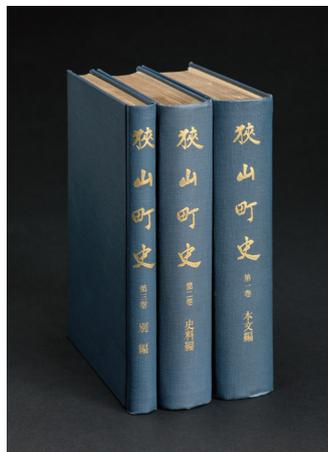


図3 『狭山町史』

### 3. 市民活動による調査の実績

市民による調査活動は、昭和の初期から末永雅雄博士の影響で実施されてきました。

昭和初期に、狭山藩士の子孫が記録した『狭山藩史料』は、散逸した狭山藩関連の古文書群の内容を知ることのできる貴重な資料となっています。

また、市民の民俗調査会が実施し、当時の狭山町が刊行を補助した『埋み火』シリーズは、第1集が平成9年（1997）に刊行された『日本民俗誌集成 第15巻（近畿編3 和歌山県・大阪府）』に収録されるなど、本市の貴重な記録となっています。同じく『民俗と民話』は、町史編さん事業を担当した市助役が退職後に地域の記録をまとめたものです。いずれの調査も、町史編さん段階から、末永博士が古文書や埋蔵文化財の調査と同様に民俗調査を重要と伝えていたことに起因しています。

また、報告書として刊行されていませんが、市民が末永博士の指導のもと中学生のときから継続して調査を実施した400点余りの石器群は、その調査記録とともに市指定文化財に指定されています。（大阪狭山市文化財調査報告書49『大阪狭山市指定文化財第6号大阪狭山市内等採集考古資料調査報告書』参照）

### 4. シンポジウムと郷土資料館展示

#### (1) シンポジウム開催による記録

本市ではシンポジウム、フォーラムなどの開催を通して、多くの研究者から指導、助言を得てきました。狭山池をはじめとする本市の文化財について、歴史学をはじめとして、保存科学、環境学、防災学などの知見に基づく文化財の価値、活用や保存についての講演内容を記録に残しています。



図4 近年の狭山池シンポジウムのチラシ

## (2) 郷土資料館事業

昭和56年(1981)に開館した郷土資料館では、末永雅雄博士の指導のもと、学芸員会を設置し展示とともに調査事業を実施してきました。

展示では、本市の歴史文化をテーマに、これまでの調査の成果を盛り込み、わかりやすく伝えるように努めています。また、地名研究などの調査は郷土資料館で基礎調査を実施し、末永博士を会長とする学芸員会が「広報さやま」に掲載しました。連載内容は加筆して『狭山の地名五十話』(平成4年(1992))として刊行しています。

学芸員会では他にも、町史編さん後の調査成果を「さやまシリーズ」としてまとめ、後に『大阪狭山市史要』(昭和63年(1988))として刊行しています。



図5 近年の郷土資料館特別展・企画展のチラシ

## 5. 類型別にみた把握状況

ここでは、類型別の文化財調査状況について記述します。

建造物は、大阪狭山市史編さん事業および歴文構想策定にともなう調査によって調査済みです。美術工芸のうち、絵画、彫刻、工芸品、書跡・典籍、歴史資料については、狭山町史・大阪狭山市史編さん、郷土資料館事業にともない調査をおこなっていますが、調査が不十分な状況です。古文書については、狭山町史・大阪狭山市史編さんを中心に継続的に調査をおこなっています。その成果を文書目録として刊行し、おおむね調査ができている状況です。考古資料については、市内の開発にともなう緊急調査、狭山池の平成のダム化工事にともなう文化財調査をおこない、その成果を報告書として刊行し、おおむね調査ができている状況です。石造物については、大阪狭山市史編さん事業で調査を実施し、『大阪狭山市史』で報告しており、調査済みです。

無形文化財については、調査の結果該当がありません。

民俗文化財のうち、有形の民俗文化財は、大阪狭山市史編さん、郷土資料館事業にともない調査をおこなっていますが、調査が不十分な状況です。無形の民俗文化財は、市民活動による調査実績があり、大阪狭山市史編さん、郷土資料館事業にともない調査をおこなっており、文化財報告書と『大阪狭山市史』で報告しており調査済みです。

記念物のうち、遺跡・名勝については、市内の開発にともなう緊急調査、狭山池の平成のダム化工事にともなう文化財調査をおこない、おおむね調査ができている状況です。動物・植物・地質鉱物

物はシンポジウム開催にともない一部調査をおこなっていますが、調査が不十分な状況です。

文化的景観については、狭山池の史跡整備にともない調査を実施し、調査済みです。

伝統的建造物群、文化財の保存技術については、調査の結果該当がありません。

表6 大阪狭山市内の文化財調査の実施状況

		実施状況	
有形文化財	建造物	●	
	美術工芸	絵画	▲
		彫刻	▲
		工芸品	▲
		書跡・典籍	▲
		古文書	◎
		考古資料	◎
		歴史資料 (石造物)	●
無形文化財	●		
民俗文化財	有形の民俗文化財	▲	
	無形の民俗文化財	●	
記念物	遺跡	◎	
	名勝地	◎	
	動物・植物・地質鉱物	▲	
文化的景観	●		
伝統的建造物群	●		
文化財の保存技術	●		

文化財の把握調査の実施状況

- 調査済み
- ◎ おおむね調査ができている
- ▲ 調査が不十分